

**保土ヶ谷区地域子育て支援拠点事業
平成31年度重点目標評価結果・次年度重点目標**

事業実施期間	平成31年4月1日～令和2年3月31日(4年度目/5か年度)
事業の実施者	特定非営利活動法人ピアわらべ 保土ヶ谷区こども家庭支援課
事業目的	市民が安心して子どもを生み育て、子育てに喜びを感じることができる社会環境を形成し、子育てを地域全体で支援する地域力の創出に寄与することを目的とします。 【事業・施設運営の基本理念】 1 保土ヶ谷区における、地域による子育て支援の拠点施設としての運営 2 子どもの視点に立ち、すべての就学前児童及びその養育者、並びに子育てに関する支援活動を行う者に開かれた運営 3 子どもと家庭を支援する各種の行政等機関・地域等との連携を図る運営 4 利用者の意見、子育てをめぐる社会情勢、市民ニーズの変化に柔軟に対応できる運営 5 子ども及びその養育者の育ちを支援するとともに、養育者自身が事業の担い手として関わることができる視点に立った運営 6 地域の人と人とのつながりを広げ、地域ぐるみの子育て支援を目指す運営
事業の内容	1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業) 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業) 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業) 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(支援者ネットワーク事業) 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業) 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること(横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業) 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)
事業の評価実施方法及び評価結果の公表方法	1 今年度の取組状況や利用者アンケート結果等をもとに、協働契約書中の役割分担表の項目に沿って設定した、今年度の達成目標のうち、当該年度に特に重点的に取り組む達成目標である「重点目標」について、以下の通り、相互振り返りを踏まえた取組成果と課題を公表します。 2 今年度の取組状況や成果、課題を踏まえ、次年度の重点目標を公表します。

平成31年度重点目標の評価

平成31年度重点目標	保土ヶ谷区の親子が安心して過ごせるように、支援者同士のネットワークを深め、多世代交流や多様な親子への取組を推進します。
取組内容	・多様な方(多国籍の親子・父親・妊娠期の方)にむけて、様々な事業を通し養育者同士のつながりを構築していきます。 ・区内の親子の居場所(つどいの広場、子育てサロンなど)の利用状況を把握し、利用につながる周知の仕方を工夫していきます。 ・子育て支援連絡会を開催し、地域のつながりの中で子育てをする大切さを共有していきます。
取組の成果	・「お父さんと笑おう」「BP講座(産後の方向け講座)」等様々な事業を通し、多様な方々が交流し情報交換する場を提供することができました。 ・利用者が区内の親子の居場所(親と子のつどいの広場、子育てサロン等)の情報を自ら収集しやすいようにひろばの情報コーナーをリニューアルしたり、訪問の際得た居場所の情報を設置するなど、情報発信の仕方を工夫しました。 ・区、主任児童委員会、親と子のつどいの広場との共催事業「ほ도가やこどもニコニコフェスタ」において、区内の居場所の情報を提供し、子育て資源の周知に努めたところ来場者の8割の方から「情報が得られた」との声がありました。 ・「ほっとなまちづくり」など地域福祉保健計画の会議等に参加し、子育ての現状や地域で親子を見守る大切さを伝えたことで、自治会の方々など地域の方のエリア別子育て支援連絡会への参加がありました。
取組の課題	・妊娠期の方も利用しやすい場になる工夫が必要です。 ・子育て資源の利用に結びつかない親子への情報発信にSNSの活用など、さらなる工夫が必要です。 ・地域全体で子育ての大切さを考えていけるように、子育て支援連絡会への地域の方(自治会等)の参加を促していくことが必要です。 ・地域の中で安心して子どもを預け預かりあうための工夫が必要です。

次年度重点目標

令和2年度重点目標	保土ヶ谷区の親子が安心して過ごせるように支援者同士のネットワークを深め、多世代交流や妊娠期からの多様な親子へ取組を推進します。
取組内容	・妊娠期の方や外国籍の方など多様な方にむけての事業を通じて利用者同士のつながりを構築していきます。 ・区内の親子の居場所の状況を把握し、利用につながる情報発信の仕方を工夫していきます。 ・自治会等地域の方を交えた子育て支援連絡会を定期的に開催したり、保土ヶ谷区地域福祉計画に関わる会議に参加し地域全体で子育てしていく大切さを伝えていきます。 ・地域で子どもの預け預かりあいを広げていくため子育てサポートシステムの活用の仕方を検討していきます。